

平成28年第4回大仙市議会定例会

# 市 政 報 告

平成28年11月28日

大仙市長 栗 林 次 美

平成28年第4回大仙市議会定例会にあたり、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況について申し上げます。

はじめに、花火産業構想の進捗状況について報告いたします。

施策1「花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す拠点づくり」に係る事業のうち、(仮称)花火伝統文化継承資料館の整備については、現在、実施設計業務を進めております。設計作業にあたっては、花火資料の収集・保存を市と協働で行っている「花火伝統文化継承プロジェクト」をはじめ、「大曲の花火協同組合」など関係団体等からの意見を聞きながら進めており、今次定例会中に進捗状況等について議員説明会の開催をお願いしております。

施策2「花火を支える人材育成・研究開発の場の創出」に係る事業のうち、花火を支える人材の育成については、足利工業大学の丁教授を講師に迎え、8月29日から9月2日までの5日間、火薬類製造保安責任者資格取得講座を開催し、県外の花火師2人を含む受講者14人のうち10人が資格試験に合格しております。また、9月13日から15日までの3日間、高校生を対象とした同大学による煙火学出前講座を開催し、市内及び美郷町の4校の生徒144人が化学の授業として花火の仕組みを学んでおります。

施策3「日本屈指の花火製造・打上技術を基盤とする新たな花火生産拠点づくり」に係る事業のうち、株式会社花火創造企業の工場建設については、来年4月の国際花火シンポジウム開催までに操業を開始するため、9月6日から建設工事が始められております。花火創造企業は、本市の強み、特色である「花火」を活かした地元資本による内発型産業を具現化するものであり、花火産業構想を推進するエンジンの役割を担っていることから、操業支援として工場建設に係る経費の一部を市単独で補助することとし、今次定例会に関連予算の補正をお願いしております。

施策4「花火ブランドを活かした観光・商業・農業振興策の強化・拡充」に係る事業のうち、「大曲の花火ダリア」の開発については、9月26日に東京都の大田花き市場関係者に対して本年度開発した品種の需要調査を実施し、その結果を踏まえ最終選考により新たに2点を決定しております。これにより、「大

曲の花火ダリア」は6種類となり、一部については出荷が始まっております。

また、ダリアの球根から製造したダリア焼酎「大仙の華」については、ラベルのデザインも決まり、限定500本で販売されております。

第16回国際花火シンポジウムについては、秋田銀行、北都銀行、羽後信用金庫からご協力をいただき、各金融機関が主体となって事業所向けの「外国人観光客おもてなし講座」を10月18日から開催し、宿泊業や小売業、タクシー業などの方々が指差し会話シートを使った意思疎通の方法を学んでおります。

また、11月15日には、東京都において「花火師との懇談会」、「国際花火シンポジウム日本委員会」及び「東京『大曲の花火』の集い」を開催し、花火師をはじめ関係団体等に対し、「国際花火シンポジウム」への協力をあらためて要請したところであり、参加者からは、賛同と期待の声をいただいております。

なお、シンポジウムの参加登録に先行して9月19日から宿泊予約を開始しておりますが、11月23日現在で、海外の22カ国180人から申し込みを受けております。

次に、雪対策についてであります。

本格的な降雪期を前に、市民、事業所、行政が一丸となってこの冬を無事故で乗り切る機運を高めるため、11月1日に「大仙市除雪等合同出動式」を開催しております。出動式には、道路除雪業者、除雪ボランティア「大仙雪まる隊」、雪下ろし登録事業者、間口・通路除雪に従事するシルバー人材センター、消融雪施設管理組合や地域提案型自治会等雪対策モデル事業の実施団体など総勢261人の出席をいただいております。

新たな雪対策事業として昨年度から取り組んでいる「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」については、事業計画の申請があった22のすべての団体に対して交付決定を行っております。

また、「高齢者等雪対策総合支援事業」については、10月末現在で、692世帯から申請があり、随時、利用決定を行っております。申請内容の内訳は、間口除雪の申し込みが430世帯、雪下ろし事業者の割り当て希望が414世帯となっており、これに対応する雪下ろし登録事業者は106事業者となっております。

おります。

道路除雪事業については、除雪の担い手である地元建設業者の経営安定化と雇用の確保を図るとともに効率的な除雪体制を構築するため、共同企業体化を前提とした業務委託方式への見直しを進めております。本年度は、大曲地域を除く7地域の共同企業体のほか、従来どおり選定された大曲地域の18法人、1組合の計26経営体と10月31日付けで業務委託契約を締結しております。

それでは、各部局の主要事業の進捗状況について報告いたします。

はじめに、総務部関係についてであります。

大仙市民賞については、リオデジャネイロオリンピックに出場し、多くの市民に深い感動を与えてくれたマラソン競技の佐々木悟選手、カヌー・スラローム競技カナディアンペアの佐々木将汰選手、翼選手の3選手に贈呈しております。佐々木悟選手には「南外中学校学校祭」において、佐々木将汰選手、翼選手には「きょうわ祭」において贈呈式を行っており、集まった多くの市民とともに3選手の健闘をたたえたほか、贈呈式終了後には、それぞれオリンピック報告会を開催しております。

本年度の職員採用試験については、各職種合わせて117名の申し込みがあり、最終合格者は一般行政事務17名、保健師2名、上級土木1名、職務等経験者1名の計21名としております。

大曲仙北広域市町村圏組合の一般事務職員の採用試験については、25名の申し込みがあり、最終合格者は4名となっております。また、消防職員の採用試験については、各職種合わせて32名の申し込みがあり、最終合格者は上級消防5名、初級消防7名の計12名となっております。

次に、企画部関係についてであります。

非核平和都市宣言事業については、10月24日、中仙市民会館ドンパルを会場に約450人の参加のもと、「平和祈念フォーラム」を開催しております。フォーラムでは、7月下旬に広島市へ非核平和レポーターとして派遣した中学

生9名、高校生1名による学習報告を行ったほか、平和標語コンクールの各部門最優秀賞受賞者3名に対する表彰や、潟上市出身で戦争の記憶を次世代につなぐ活動を行っている日本大学2年の三浦正基氏みうらまさきによる講演などを行っております。

ふるさと納税については、市を代表する特別栽培米と市内蔵元のお酒を返礼品とした制度を10月11日からスタートしており、合わせてインターネットによる受付も開始しております。本年度の寄附の申し込み状況は、11月17日現在で56件、488万円となっており、そのうち新制度を開始してからは31件、326万5千円となっております。

次に、市民部関係についてであります。

大曲墓園の整備については、墓地区画の増設工事及びトイレ・休憩所の建築工事が10月3日に完了し、10月30日から11月1日まで新規84区画の利用募集を行ったところ、42人から応募をいただいております。

西仙北地域柏台における太陽光発電所の発電実績については、本年4月から10月末までの推定発電量224万キロワットアワーに対して、約114パーセントの256万キロワットアワーとなっており、順調に推移しております。

廃棄物処理の広域化については、大仙市、仙北市及び美郷町の2市1町で取り交わした基本合意書に基づき、来年4月、大曲仙北広域市町村圏組合に「広域化準備室」を設置することについて、大曲仙北広域市町村圏組合の規約の一部を変更する必要があることから、関連する単行案を今次定例会に上程しております。

安全安心なまちづくりについては、防犯、防災、青少年健全育成、交通安全の各分野の関係団体のご協力をいただき、10月25日に南外地域において、約370人の参加のもと「大仙市安全安心推進集会」を開催しております。当日は、交通安全啓発パレードを行った後、南外体育館を会場として、個人7名と3団体に対する功勞表彰や南外地域出身で仙台市副市長の伊藤敬幹氏いとうゆきもとによる講演などを行っております。

次に、健康福祉部関係についてであります。

国が消費税率の引き上げによる影響の緩和策として実施している平成28年度臨時福祉給付金については、11月11日現在の申請率が87.2パーセントとなっており、未申請の方には今後あらためて申請書を発送するなど申請の勧奨に努めてまいります。

また、国の平成28年度第2次補正予算による経済対策臨時福祉給付金については、対象者一人当たり15,000円が支給されることとなっており、来年3月から申請の受付を開始する予定であります。

敬老会については、9月2日の太田地域、大川西根地区を皮切りに15会場で開催し、4,151名の皆様から参加をいただき、各会場とも盛会裏に終了しております。

金婚式については、10月26日に、仙北ふれあい文化センターを会場に開催し、結婚50周年を迎えられた50組のご夫婦を祝福しております。

放課後児童クラブについては、年々、利用希望者が増加していることから、新たに仙北地域の横堀小学校において、来年4月の開設に向けて準備を進めておりましたが、学校側の協力が得られたことから、前倒しして本年12月の冬休みから定員30人として開設することとしております。

大腸がん検診研究事業については、特定健診と同時実施している集団検診のほか、日曜健診や職場健診において参加者を募集した結果、10月末現在での新規参加者は884人、累計で6,019人となっております。新規参加者の募集は本年度で終了となり、参加者数は研究目標の6千人を超えておりますが、今後も追加検診を予定していることから、さらに増える見込みとなっております。

次に、農林部関係についてであります。

稲作については、10月15日現在の全国の作況指数は「103」のやや良、秋田県及び県南は「104」の同じくやや良と発表されているほか、JA秋田おぼこの取りまとめによる大仙市の一等米比率は、11月14日現在で96.7パーセントとなっており、昨年同様高い水準となっております。

また、米の出荷時に J A から農家に支払われる仮渡金については、全国的な主食用米の生産抑制傾向から、60 キログラム当たりの仮渡金は昨年より 1,000 円高い 11,000 円となっております。

大豆振興については、市内 4 地域に設置した各実証ほ場及び協和地域のモデルほ場とも 10 月 25 日にはすべて刈り取りを終えております。技術指導をいただいている東北農業研究センターによると、収量は、市の目標としておりました 10 アール当たり 200 キログラムに対して、300 キログラムを上回るほ場もあると伺っております。今後、実証結果を取りまとめ、実績検討会を開催し生産技術のさらなる向上に努めるほか、販売面についても引き続き J A 全農等と協議し、農家収入の向上に取り組んでまいります。

9 回目となる大仙農業元気賞については、10 月 19 日に本市農業の若き担い手 4 名を表彰しております。受賞された 4 名には、これまでの受賞者 27 名と同様、地域農業をけん引する若手農業者として、さらなる活躍を期待しております。

本年度から栽培が本格化した中仙地域の園芸メガ団地については、10 月下旬にトマトの収穫をすべて終えております。本年は、7 月下旬から気温が上昇し、収穫量が一気に増加したため、多くの労働力が収穫作業に割かれ、その間の栽培管理作業の遅れが 8 月以降の収穫量の減少につながり、最終的な年間出荷量は目標の 6 割程度の 208 トンと伺っております。市といたしましては、関係機関と連携を図りながら、栽培技術や作業体制の向上に向けた取組を支援してまいります。

道の駅なかせん地内で休止となっている米菓工場の有効利用については、地域内農産物を活用した計画を公募し、中仙地域の農業法人によるトマトを主軸とした搾汁<sup>さくじゅう</sup>施設の整備計画を候補として選定しておりますが、今般、本計画が国の「産地パワーアップ事業」として採択される見通しとなったことから、米菓製造機械の撤去費及び搾汁<sup>さくじゅう</sup>に必要な機械施設の整備費について、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

12 回目となる「大仙市秋の稔りフェア」については、10 月 22 日と 23 日の両日、昨年までの会場を大曲ヒカリオと花火通り商店街に変更して開催し

ておりますが、天候にも恵まれ、昨年を5千人ほど上回る3万6千人のご来場をいただき、多くの市民から稔りの秋を楽しんでいただいております。

初めての太曲駅前地区での開催となりましたが、太曲ヒカリオや花火通り商店街等の取組が相乗効果を発揮し、中心市街地の賑わい創出に貢献することができたものと考えております。

また、各地域のイベントについては、10月2日に「美山湖フェスティバル」、10月15日、16日の両日に「かみおか地域文化祭」、「全国ジャンボうさぎフェスティバル」、「きょうわ祭」、「仙北公民館まつり」、10月16日に「なんがい地域祭」、10月29日、30日の両日に「にしせんぼく文化祭」、「なかせん芸術文化祭」、「太田地域芸術発表会」が開催され、それぞれ盛会裏に終了しております。

次に、経済産業部関係についてであります。

2回目となる「太曲の花火 秋の章」については、10月8日に開催し、あいにくの空模様となりましたが、1時間あまりの花火ショーを約3万人の方々からご覧いただき、「太曲の花火」ブランドを活用した地域活性化や来春の国際花火シンポジウムのPRに結びつく催しとなりました。

4回目となる「大仙市ふるさと物産フェア2016 in 有楽町」については、11月11日と12日の両日、市観光物産協会が中心となり、本市の特産品の販売やご当地グルメの提供、国際花火シンポジウムを中心とした観光PRを行っており、ふるさと会会員の皆様をはじめ、一般のお客様にも多数来場していただき、好評のうちに終了しております。

「第4回大仙市特産品開発コンクール」については、市内の企業等から9点の応募があり、審査員が消費者ニーズ、デザイン、技術・品質等について総合的に審査した結果、特Aあきたこまちを100パーセント使用した米菓「秋田スティック」が最優秀賞に選ばれたほか、5作品を市の特産品として認定しております。入賞作品については、県内外のイベント等においてPRするなど販路拡大に向けた取組を支援してまいります。

国際交流については、10月15日に大仙市国際交流協会との共催による「第



9回国際フェスティバル in 大仙」をイオンモール大曲において開催しております。本市の国際交流員やALTも参加し、各団体の活動や各国の文化を紹介するインターナショナルブース、民族衣装や民族芸能などを披露するステージなどにより、多くの来場者から多様な文化に触れていただいております。

地域間交流については、11月20日に行われた「座間市民ふるさとまつり」に、千葉議長、久米副市長など総勢21名が参加し、大仙市の観光PRや物産販売を行い、来場者から好評をいただいております。また、来月の26日から28日には、座間市子ども会連絡協議会の青少年18名が本市を訪れ、市内の青少年とスキー体験などを通じて交流することとしております。

宮崎市との有縁交流<sup>うえん</sup>については、10月28日から3日間、さどわら会会員をはじめ、久米副市長と市議会議員の皆様を含む19名が宮崎市を訪問し、宮崎神宮大祭のパレードにおいて「大曲の花火」や「500歳野球大会」をPRするなど交流を図っております。

12回目となる「大仙市技能功労者表彰」については、10月13日にものづくりに対して優れた技能を持ち本市産業の発展に尽力された電気工事業、管工事業、基礎工事業の3分野から3名の方々を表彰しております。

来年3月の高校卒業予定者に係る就職状況については、ハローワーク大曲の集計によると、求人数は10月末現在で480人となっており、去年同期との比較で8.8ポイント上回っております。就職希望者は10月末現在で322人となっており、このうち内定者は271人で就職内定率は84.2パーセントと、去年同期との比較で1.0ポイント増加しております。

「大仙市首都圏企業懇話会」については、11月24日に東京都において、本市出身の企業関係者や進出済み企業の代表、ふるさと会会員、本市出身の国会議員など37名のほか、市議会議員、市内商工団体の方々など合わせて60名の参加により開催しております。懇話会では、東京藝術大学客員教授で法隆寺金堂壁画保存活用委員会委員長を務められ、太田地域出身の仏画家鈴木空如の作品について調査・研究をされている<sup>ありが よしたか</sup>、有賀祥隆先生から講演をいただいたほか、市政の報告や企業支援策の紹介及び参加企業の現状などについて情報交換を行っております。

次に、建設部関係についてであります。

社会資本整備総合交付金を活用した道路整備事業については、南外地域の市道南外1号線の改良工事を発注済みであります。これにより、南外地域と西仙北地域の円滑な交通の確保と雄物川の増水に伴う孤立世帯の発生未然防止を目的として進めてきた本工事は、全区間の改良が完了することとなります。

同じく、太田地域の市道久保関古館線における通学路歩道整備事業については、路床路盤工事が完了し、協和地域の市道宮田又線において道路施設老朽化対策事業として実施している法面補修事業については、12月末までに補修工事が完了する予定であります。また、神岡地域の市道坊ヶ沢戸月線における路肩改修事業については、道路改良工事が完了し、残る舗装工事についても12月下旬の完了を目指して進めているほか、南外地域の市道南外4号線の用地測量及び市道南外19号線の本年度分の工事は12月上旬に完了する予定であります。

同交付金を活用した橋梁の長寿命化対策については、仙北地域の「川福橋」の補修工事が完了したほか、同地域の「川前橋」の補修工事は12月末までに路面舗装を完了させ一般の通行を可能とする予定であります。

なお、国の第2次補正予算により内示があった社会資本整備総合交付金の対象となる各事業については、今次定例会において予算の補正をお願いしております。

市単独事業で実施している各地域の道路工事については、55カ所のうち、37カ所が完了し、渇水期に実施する必要がある協和地域の市道野田・川台・宇津台線の横断暗渠補修工事を除く17カ所についても発注済みであります。

道路情報管理システムの整備については、統合型GIS基本計画及び道路台帳統合基本計画に基づき、来年度の本格運用に向けてシステム構築作業を進めております。

水害対策事業については、秋田県が実施している福部内川河川改修事業に関連し、内水処理対策として昨年度整備した福見町排水区に引き続き、上流部の支排1号排水区に係る排水機場の設置工事を発注しております。

住宅リフォーム支援事業については、9月26日時点で申請額が予算額に

到達し、受付を終了しております。申請件数は375件となっており、うち、  
克雪工事は89件、耐震化工事は3件、子育て世帯改修工事は5件で、累計工  
事費は約9億5千万円となっております。

次に、国、県関係事業についてであります。

国の雄物川中流部の河川改修事業については、南外地域の西板戸地区で盛土  
工事が本年度中に完了する見込みとなっているほか、西仙北地域の強首及び寺  
館大巻地区、協和地域の中村・芦沢地区の築堤及び改修工事についても順調に  
進捗していると伺っております。

また、協和地域の岩瀬・湯野沢地区については、国から堤防ルートが公表さ  
れたことに伴い、市が実施した移転に関する意向調査において、移転対象者の  
約6割が市が整備する土地への集団移転を希望しております。

県関係工事については、主要地方道角館六郷線の太田地域伊勢堂工区につい  
て、本年度の完了を目指し歩道整備工事を実施していただいているほか、主要  
地方道神岡南外東由利線の南外地域下袋<sup>しもぶくろ</sup>バイパスについて、本年度の部分供用  
に向けて舗装工事を実施していただいております。

次に、上下水道部関係についてであります。

上水道事業のうち、大曲上水道宇津台浄水場更新事業に係る工事については、  
土木工事及び建築工事について、9月上旬に契約を締結しております。現在は、  
仮設用道路の築造を終え、雄物川左岸の花火打ち上げ場等へ掘削土<sup>くっさくど</sup>の搬出を行  
っております。

浄水処理設備関係の機械・電気工事については、報道機関から談合情報が寄  
せられたことに伴い、入札参加資格のある業者10社に対し、事情聴取を実施  
しております。これを受け、入札契約資格等審査委員会において審議した結果、  
談合の事実は認められないものと判断し、予定どおり、11月14日に開札を  
行っております。最終的には、見積内訳明細書や入札参加資格要件を精査し、  
11月16日の同委員会において審査を行い、17日付けで「オルガノ・羽後・  
玉川特定建設工事共同企業体」と請負契約を締結しております。

簡易水道事業のうち、中仙地域の入角地区における新水源の確保については、10月上旬に電気探査業務が完了したことから、今次定例会において、水源調査業務に関する予算の補正をお願いしております。

下水道事業については、本年度予定していた大曲、神岡、南外地域における管渠工事をすべて発注済であり、12月中旬の完了を予定しております。

また、刈和野、協和の下水処理場長寿命化整備事業については、3月の完了を目指し工事を進めております。

次に、教育委員会関係についてであります。

「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」については、避難所の開設訓練等を10月21日に仙北中学校を会場に実施しております。地域住民や中学生サミットのメンバー有志など約330人が参加し、非常時に有効な新聞紙を活用したスリッパや食器づくりをはじめ、心の癒やしにつながる「ハンドリラクゼーション」の方法を教わるなど、日本赤十字社秋田支部及び仙北分区との連携により、実践的な訓練を実施しております。

加えて、これまでの取組を参考に、7月3日には平和中学校が、10月25日には大曲中学校が、それぞれ地域住民や関係機関と連携してシェイクアウト訓練や避難所開設訓練を実施しております。

また、本事業では、被災地との交流活動を支援しており、これまでに5中学校が連携している小学校や地域の方々とともに、それぞれ継続して交流している被災地と複数回の交流活動を実施しているほか、小学校単独でも育てた米を届けたり、現地で花を植えたりする活動が行われており、今後も交流と学びが深まることを期待しております。

子どもたちの夢の実現意欲を育む「こころのプロジェクト『夢の教室』」については、本年度最後となる小学校の教室を11月16日、17日の両日、4校の4年生から6年生を対象に、チェリストの羽川真介はがわしんすけ氏を講師に迎えて実施しております。同じく中学校の教室を10月20日、2校の全校生徒を対象にピアニストの佐藤卓史さとうたかし氏を講師に迎えて実施しております。

小・中学校の部活動等については、9月18日に行われた全県駅伝競走大会

で大曲中学校が見事初優勝を果たし、12月18日に滋賀県で行われる全国大会への出場が決定しております。

また、花館小学校及び大曲中学校のマーチングバンドが10月29日に行われた東北大会を勝ち抜き、12月17日に「さいたまスーパーアリーナ」で行われる全国大会に出場することが決定しており、特に、大曲中学校の全国大会7連覇に期待がかかるところであります。

学習指導の充実のための取組については、10月26日に太田東小学校及び太田中学校が「全県外国語・外国語活動研究大会」を、11月2日に花館小学校及び大曲中学校が「全県道德教育研究会」を開催しており、県内外からの参加者を得て、これまでの研究成果を発信し、教員の授業力向上を図っております。

また、国の教育課程研究指定校事業により、11月1日には大曲中学校が国語について、16日には大曲南中学校が「持続可能な開発のための教育」について、22日には西仙北中学校が美術について、25日には中仙中学校が理科について、それぞれ研究成果を公開しております。

生涯学習の推進については、10月中に国民文化祭回顧展「木村伊兵衛展」、「こどもフォトコンテスト」の応募作品展示、「子ども囲碁大会」と「親子囲碁教室」、子どもたちのステージ発表「MIRAI☆ステージ」を、次世代育成を目的とした継承事業として開催しております。

東北将棋大会については、11月10日から13日まで西仙北地域で開催され、学生大会に東北の9大学から54人、11月13日の市長杯争奪戦に県内外から119人が参加し、それぞれ熱戦が繰り広げられております。

芸術文化関係については、大仙市芸術文化祭が9月24日、25日の両日、大曲交流センターにおいて開催されたほか、各地域においても芸術文化祭や出前民謡など多種多様な事業が展開され、市内の芸術文化協会の会員同士が交流を深めるとともに、多くの市民の方々に鑑賞いただいております。

総合市民会館事業については、11月6日に仙北ふれあい文化センターを会場に民俗芸能フェスティバル、11月12日に大曲市民会館を会場に南外地域出身の<sup>たかはしのりひろ</sup>高橋紀博氏による「フラメンコギターコンサート」を開催したほか、昨

日は「NHKのだ自慢」が開催され、多くの市民に楽しんでいただいたところ  
であります。

文化財保護については、鈴木空如・法隆寺金堂壁画模写の表装修復の完了に  
合わせ、10月7日から10日間開催した市が所有する12点すべての展示公  
開と、10月15日に開催した法隆寺の<sup>おののげんみょう</sup>大野玄妙管長による講演会に、市民や  
研究者をはじめ約1,800人からお出でいただき、盛会裏に終了しておりま  
す。

旧池田氏庭園については、10月8日から11月6日までの約1カ月間、秋  
の一般公開を行い、来園者は約7,300人となっております。また、11月  
5日、6日の両日、4回目となる旧池田氏庭園弘田分家庭園イルミネーション  
ライトアップ事業「晩秋のファンタジーナイト」を実施しており、好評をいた  
だいております。

スポーツ振興については、第38回全県500歳野球大会が、9月17日か  
ら21日までの5日間、神岡野球場を主会場に市内18会場で開催され、全県  
各地から昨年と同じ184チームが参加し、熱戦が繰り広げられました。本大  
会では、来年の全国大会に向けて、参加選手からPR用DVDに出演いただく  
など、市民をはじめ、大会に携わった多くの方々から全国に向けた情報発信と  
機運の醸成にご協力をいただいております。

また、日本リトルシニア中学硬式野球の秋季新人東北大会については、東北  
連盟に加盟している53チームを迎え、10月1日から4日間にわたり、大仙  
市8会場、横手市5会場、美郷町1会場で開催されております。本大会は、東  
北各地から選手・保護者・関係者など約3,000人が参加する大会であるこ  
とから、地理的に利便性の良い野球場や受入態勢の充実等をアピールしながら、  
本市を主会場とした継続開催を働きかけてまいります。

大曲、協和、太田の3スキー場については、12月23日にオープンする予  
定となっており、本年度も児童生徒が雪国ならではのスポーツを通して体力づ  
くりを行えるよう、市内の小学生、中学1・2年生及び特別支援学校の児童生  
徒を対象に、無料のリフトシーズン券を配布することとしております。

次に、平成29年度当初予算編成についてであります。

来年度は、第2次大仙市総合計画の2年目であり、基本構想に掲げる市の将来像の実現に向け、計画されている事業、施策への取組をさらに深めていく必要があります。

また、人口減少や人口構造の変化など社会環境の変化に的確に対応しながら、市民が必要とするサービスを安定的に提供するとともに、未来への投資となる施策に取り組み、市民生活の向上を目指した効果的な予算編成に努めてまいります。

主な事業としては、国際花火シンポジウムや全国500歳野球大会の開催、大曲仙北広域市町村圏組合において本格的に着手する広域消防本部建設事業及びかわ舟の里角間川改築事業や（仮称）花火伝統文化継承資料館の整備事業など、ソフト・ハード両面で大型事業が予定されており、一般会計の当初予算総額は、現時点の推計で本年度を上回る470億円前後になるものと見込んでおります。

一方、普通交付税における合併特例措置額の段階的な縮減により、一般財源の確保が年々厳しくなるものと見込まれることから、より効果的な財政運営が求められるものと考えております。

このようなことから、「事務事業の検証・評価・見直し」や「限られた財源の有効活用」を図りながら、推進すべき事業の財源を確保し、市民ニーズへの対応と地域の特性を活かした事業の構築に努めてまいりたいと考えております。

なお、予算編成においては、「2年目となる総合計画の実施に向けた施策の重点化」、「歳入規模に見合った歳出規模への転換」の2点を基本的な考え方とし、「少子化・人口減少対策」、「地域資源の活用」、「地域のひとづくり」、「だいせんライフの確立と発信」及び「地域防災力の向上と都市基盤の整備」の5つの視点に基づいて、作業に取り組んでまいります。

以上、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況を報告いたしました。この場をお借りいたしまして、来春の市長選への対応について申し上げます。

平成25年4月に、大仙市長として3度目の市政運営の舵取り役を担わせていただいてから、早3年8カ月が過ぎようとしております。

私はこの間、「弱い立場にある人たちに、いかに政治の光をあてるか」という政治信条を原点に、それまでの2期8年の市政運営によって得られた成果のもと、新しい市の「基礎固め」に一定の目途をつけ、本市が次なるステージへと飛躍していくための「道筋」をつけることが使命であると考え、市民の皆様に約束した7つの公約の実現に向け、大仙市総合計画に基づきながら、市政運営に取り組んでまいりました。

1つ目の公約であります「仙北組合総合病院を核とした再開発事業」については、国・県等からのご協力とご支援、仙北市、美郷町、厚生連などの関係団体との連携のもと、本市の最重点課題として取り組み、昨年11月に本市の新たな顔「大曲ヒカリオ」としてグランドオープンさせることができました。圏域住民14万人の念願であった地域中核病院・大曲厚生医療センターを核に、医療・福祉・健康・交通などの都市機能が集約整備された大曲ヒカリオは、長寿社会が進行する中であって、市民の皆様が将来とも安心して暮らしていくための重要な拠点となるものであり、持続可能な都市づくりを進める上で大きな一歩であったと思っております。

2つ目の「市民と行政との協働のまちづくりの推進」については、合併以来、一貫して取り組んできたテーマであり、これまでの成果のもと市民の皆様のご知恵と行動力がまちづくりに最大限活かされるような仕組みづくりに努めてまいりました。今、市内各地で地域協議会、コミュニティ会議、自治会、ボランティア組織をはじめ各種団体等のご協力が、「地域枠予算」や「がんばる集落応援事業」などの市の支援制度を活用しながら、自主的に活動に取り組まれている姿を拝見し、望ましい協働のまちづくりが少しずつではありますが着実に進んでいることを実感しております。

3つ目の「文化・生活の根元である農業の振興」については、半世紀続いた米政策の大転換やTPP問題、担い手の高齢化と後継者不足、耕作放棄地の増加などの様々な課題を踏まえ、良質な米の生産はもちろんのこと、土地利用型農業としての大豆栽培の拡大に向けた取組や園芸作物の振興、6次産業化の推



進などのほか、新規就農者の育成強化、認定農業者・農業法人の育成、生産基盤の強化など、農業・農村を守り、地域農業力を高める取組に力を注いでおります。

4つ目の「子育てと教育の充実」については、未来を担う子どもたちの健やかな成長を市全体で支援していくための「大仙市子ども条例」の制定、大曲駅前こども園の開設や各地域での放課後児童クラブの新增設、妊婦健診の充実や子どもの医療費助成の拡充、子ども・若者総合相談センターの開設のほか、総合的な学力の育成や地域と連携した特色ある教育活動の推進、学校給食センターの統合整備などを行ってきたところであります。

5つ目の「災害に強いまちづくりの推進」については、東日本大震災を契機とした危機管理体制の再構築と防災減災対策の強化を目指して「地域防災計画」を大幅に改定し、消防団の再編充実や自主防災組織の育成、「FMはなび」の開局と防災ラジオの開発導入など、市民の生命と財産を守る取組を積極的に推進しております。また、冬期間の大きな課題である雪対策についても、新たに策定した「雪対策総合計画」のもと、道路の除排雪を含む既存事業の強化拡充、除雪の担い手の確保育成のほか、自力除雪の困難な高齢者世帯等への支援や除雪の地域共助活動の促進を盛り込んだ新しい制度を創設するなど、従来の枠組みを越える取組を進めております。

6つ目の「若い人達の雇用場の確保」については、トップセールスによる企業誘致活動や地場産業の育成に力を入れるとともに、雇用助成金などの就業支援により、雇用機会の創出と地域経済の活性化に努めてまいりました。その結果、企業誘致では平成25年度以降6社から進出いただき、一定の成果が現れてきております。

最後の「地方分権時代にふさわしい行財政改革」については、「幼稚園・保育園と老人施設の法人化」を軌道に乗せ、「第3次大仙市行政改革大綱」による事務事業の見直しや職員の定員規模適正化、義務的経費の抑制などを進めるとともに、市債発行額の抑制、国県の有利な補助制度の活用、基金の積み増しなど、歳出の抑制と歳入の確保に努めてまいりました。こうした取組により主な財政指標の改善が図られるなど、財政の健全化の方向も見えてきたものと思っております。

ります。

しかしながら、少子高齢化や人口減少により、地域社会のあり方が大きく変化する中で、これまでの方法では解決することができない様々な課題が顕在化しております。本市では、現在、第2次大仙市総合計画及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づいた「大仙市花火産業構想」に代表される「地域資源を活かす産業の振興」や「魅力あるまちづくりと定住移住の促進」などを柱に、地方創生の実現に向けた様々な施策に重層的に取り組み始めたところであり、こうした取組をより前進させ、人口減少に一定の歯止めをかけ、たとえ人口が減少しても、ここに住む市民の皆様が幸福感を持ちながら暮らすことができるまちをつくりあげていきたいと考えております。

合併して12年を経て、やり残した課題を整理し、大仙市が次なるステージへと飛躍していくための「道」を切り開き、市民の皆様が安心して暮らせる郷土、未来を担う子どもたちが自慢できるふるさとを次の世代にしっかりと引き継ぐため、「市政は市民のためにある」という基本理念のもと、4期目の市政に臨む覚悟であります。

以上、来春の市長選に対する考えを述べさせていただきました。

ご清聴、誠にありがとうございました。